

# 2014 年度

## 学校関係者評価委員会第 1 回議事録

日時：2014 年 9 月 19 日(金) 19 時～20 時 30 分

場所：23 教室

出席者：山野晴雄氏、小泉昌広氏、永井 純氏

列席者：八尾 勝氏、湯浅 慶氏、倉持有希子氏、上松 剛氏、林 恵子氏

欠席者：吉野たけし氏

### I. 聖書日課 マタイによる福音書 18 章 4 節

YMCA・YWCA 共通の聖書日課「日々の糧」より八尾校長が解説も併せて朗読。

### II. 議事

#### 1. 委員会の進め方の説明

八尾校長より「今年度の学校関係者評価委員会は、委員の皆様にも実際お集まりいただき会議を 2014 年 9 月 19 日（本日）と 10 月 17 日の 2 回の会議と、いくつかの学校行事をご自由にご視察いただき形で進めていきたい。また委員の皆様には、昨年同様、自己評価結果をふまえた忌憚なきご意見をお願いしたい」との挨拶があった後、「本校の介護福祉科および作業療法学科は、職業実践専門課程として正式に文部科学大臣からの認可を得ることができた。その後、一部の専門学校で虚偽の記載があったとして認定の取り消しがあった」との報告があった。

#### 2. 委員近況報告

##### 永井委員

過日 9 月 7 日に OT 科のホームカミングデイに出席し、卒業生からのレベルの高い事例発表を聞くことができ刺激を受けた。昨年 1 年間は主に事務管理の仕事を行い、特に施設管理が中心だったが、今年は医療訴訟（コンプライアスマネジメント）の勉強に取り組んでいる。

##### 小泉委員

いくつかの専門学校を回り講師をしたが、学生数が減っているのが気になった。行く先々で学生の質も様々であり、今後、受け入れ側（私の施設）でも体制を整えていく必要があると感じた。10 月には利用者の希望を尊重し、車イスで片マヒの利用者の一泊京都旅行に同行する計画をしていて楽しみである。利用者の希望を最大限かなえる方向を目指している。

##### 山野委員

義母が認知症で 6 月に入院。8 月に YMCA で行った「介護セミナー」に参加して勉強になった。家族はどうしても感情的になってしまい第三者と同じ様な関わりがむずかしいことを実感した。このようなセミナーにもっと多くの方が参加してもらえると嬉しい。

職業実践専門課程の 2 校取消については、私が最も心配していたところであり、ふさわしくない

専門学校が混ざっていたということであり大変残念である。

### 3. 委員長・議長選出

本日議長を予定していた吉野委員が欠席のため、八尾校長が議長として会を進めることが委員全員の賛成を得て決まった。

### 4. 自己点検結果 要約版の説明

資料「2013年度自己評価報告書 要約版(全20ページ)」をもとに、八尾校長よりいくつかの新しい情報、変更点について説明があった。内容は下記の通りである。

- ① 9月に社会人対象の入試が行われ、介護福祉科0名、作業療法学科3名の受験があった。  
今年度のオープンキャンパスの参加人数は介護が昨年より減少、作業はほぼ横ばいである。
- ② 「教育訓練給付金」の内容が従来のものより拡充され、条件を満たし指定校となった課程に入学する学生は最大年間32万円の給付金を受けることができる。また資格取得後、就職が決まればさらに16万円の給付金が上乘せされる。ただし、対象となるのは2年間以上雇用保険の被保険者であることが必要である。本校はこの制度の対象校となるための申請をし、介護福祉科が認可された。HPにも近日中にこの情報をアップする予定である。
- ③ 介護福祉士養成協会の情報では、今年度の介護福祉科の全国養成校の充足率は52%と昨年より11ポイント下がった。本校も募集定員を満たしていない(60名/80名)が全国と比べると私共の学校はまだ良い方かもしれない。全国には学校を閉じる決断寸前の学校がたくさんいるのが現状であるが、何とか学校を存続させ、介護福祉士の養成教育ができるよう、厚労省に方策を要請しているところである。
- ④ 昨年は「職業実践専門課程」の申請中であったが、今年度は「職業実践専門課程」に認可された専門学校としての評価をしていきたい。
- ⑤ 本校の洋式トイレすべてにウォシュレットを付けた。
- ⑥ 10ページに退学率の年度別推移が記載されている。退学率を減らしたいがなかなか減らない。退学の理由は学習についてゆけない、精神的な問題をかかえていること、の2点が最も多い。我々の力不足を痛感している。ひとつひとつのケースが違うため対応がむずかしい。
- ⑦ 就職率は両学科ともに100%であった。卒業生の全員が学んだ分野への就職を果たしている。
- ⑧ 17ページの財務基盤については、収支差の推移は2005年度まではマイナスが続いていたが、それ以降はプラスに転じ、現在はある程度安定している。
- ⑨ YMC A奨学金は現在は卒業学年対象に貸与型であるが、将来的には給付型にしたいと考えている。来年20周年を迎えるにあたり、校友会から400万円の寄付をいただくことになっており、式典などに使った残り(おそらく100万円位)は奨学金へ寄付することで了解を得ている。

本日ご欠席の吉野委員からお預かりした「自己評価報告書に基づく意見書」の内容を八尾校長がポイントのみ読み上げた。吉野委員は自己評価の項目のほとんどを「評価する」と述べている。ご意見として、①介護福祉科の3年制については、1年多く学ぶことのメリットを明確にする必

要がある。②教育環境の部分で、災害備蓄品を最低3日分確保した方が良い。というアドバイスをいただいた。

## 5. 質疑応答・ディスカッション

山野委員 (ご意見) 学校運営について、募集の問題はやはり大きいと考える。定員になるべく近づける努力が必要である。多摩地区の地域密着でやってほしい。また日常的に高校の先生と関係を作っておくことも大切である。

(ご意見) ホームページで情報公開をしているが、一番下の目立たない所に置いてあるのはもったいない。YMCAは内容的にもきちんとやっているのだから、自信をもってもっと堂々とトップの目立つ所へ「情報公開」のバナーを置いてはどうだろうか。

(質問A) 介護福祉科の充足率の低いことへの対応は何をしているか？

(質問B) 介護福祉科の3年制の構想は？そしてそのメリットは何か？

(質問C) 職業実践専門課程の「学校関係者評価委員会」と「教育課程編成委員会」の関わりを教えてください。

(質問D) 奨学金の制度を教えてください。将来的には給付を考えているのか？

八尾校長 (質問Aへの回答) 多摩地区だけでなく、東京23区プラス近隣県へも広報活動を広げている。しかし、限られた職員で行っているためもどかしさはある。

(質問Bへの回答) 現在介護の分野は様々な課題を抱えている。同じ介護福祉士の資格を取得するにも国家試験組と受験なし組があったり、高卒組でも大卒組でも同じ国家試験を受け、資格も同じであるという矛盾も存在している。医療行為についても養成校では実地研修まで終わることができないため、介護福祉士の資格を取っても医療行為のできない介護福祉士という中途半端な資格になってしまい、現場あがりの介護福祉士よりも格下になってしまうことも問題となっている。

このような状況の中、3年制に関しては慎重な議論が必要であると思っているが、私の構想としては、3年とした場合のメリットは、ワンランク上の上位資格となること。デメリットは、介護福祉士の資格さえ取れば構わない人にとっては3年は長いということである。その場合、2年プラス1年という考え方で、はじめの2年で介護福祉士の資格を取り、プラス1年は選択制にし、3年目を続けて学ぶもよし、現場経験者がその1年だけに編入するもよしと考えている。今後さらに研究していきたい。

(質問Cへの回答) 教育課程編成委員会では、委員の方のご意見をカリキュラムに反映させている。例えば卒業生をもっと有効に活用すると良いという意見を受け、今年度は両学科共に卒業生を講師として呼び、効果的な授業の展開が行われている。学校関係者評価委員会では、学校全体にかかるご意見を自己評価報告書に基づきいただいている。両方の委員会を合わせて一体であると考えている。

(質問Dへの回答) 2015年度から経済困窮学生への学費支援制度が始まる予定。この制度は学校が免除した学費の1/2を国が助成してくれる制度である。ただしこの制度で学費減免

の申請をしてくる学生の数が多かった場合、学校全体の収入が大幅に下がる可能性があるため、対象となる学生の条件などを慎重に検討する必要がある。

YMCA奨学金については、これまでに卒業生の寄付で400万円弱が集められた。現在は貸与型であるが将来的には、給付型として、月々2万円程度となるであろうが、本当の意味でのスカラシップの形を実現したい。

小泉委員 介護福祉科の3年制はよく検討する必要がある。私が専門学校を選んだ理由は2年後にすぐ就職できることが大きなメリットであると考えたからで、3年となると間延びしてしまう恐れがある。しかし医療的ケアも入ってくるので、ワンランク上の資格が必要であることも理解できる。

永井委員 (現在の職場での取り組みを紹介しながら以下3つの意見をいただいた。)

- ① 作業療法学科の国家試験合格率100%は大いに学校のウリになり、学校としてアピールできる点である。100%にするためにどんな工夫をしたか興味あるところである。
- ② 募集の裾野を広げる方法として、地域でのボランティアやイベントに出店したり、小中高へのアプローチ、行政との協力なども考えてみてはどうか。
- ③ 退学率の低下への方策として、入学後のSPI分析(性格や動向検査)や将来の希望を早い時期に把握すること、またグループディスカッションを通しモチベーションを上げることも効果的ではないかと思う。

八尾校長 介護福祉科の共通模擬試験(7月実施)は全国でも上位の成績をおさめ、健闘している。作業療法学科の国家試験合格率100%を維持したいところだが、日々教員が試行錯誤し努力しているところである。退学率の低下への工夫については、まだまだ工夫と努力が必要であると考えている。

最後に八尾校長より、本日の記録は近日中に作成し、ホームページにアップする予定であることと、本日出席いただいた委員の皆様へ感謝の意が伝えられ閉会となった。また事務局より、委員の謝礼は次回10月17日にお渡しする旨の連絡があった。

以上

記録 林恵子